

生物多様性へのとびら

生物多様性とは

生物多様性 (Biodiversity) は、生物の多様性「Biological Diversity」を意味する言葉から生まれた造語で、ウィルソンとピーターの編集による単行本「Biodiversity (生物多様性)」(1988)の中で初めて使われました。

46億年前に地球が誕生して10数億年経ち、最初、たった一つの細胞からなる生物から始まり、今では、1200万種以上とも言われる生物が地球上で生活しています。もし、最初の生きものが機械のようなものだったら、壊れてそれっきりになっていたでしょう。一つの生命が新たな生命の誕生に引き継がれ、生物多様性に富んだ地球へとつながりました。

生物多様性を、少し象徴的に「**生きもののにぎわいとつながり**」と表現されます。豊かな個性の集まりと、命のつながりが生物多様性を作り出しています。

生物多様性の恵み

最初、水も空気もなかった地球に生命が誕生して以来、幾度となく絶滅と大発生を繰り返しながら次の生命へと命が引き継がれ、多くの生きものと同様に私たち人間も存在しています。その間、常に何かを食べ、何かを身にまとい、様々な生きものに支えられながら命をつないできました。多様な生きものが存在する中に暮らす私たちには、ごくごく当たり前のことですが、毎日の私たちの暮らしに不可欠なものが生物多様性なのだということを、まず理解しておく必要があります。

もちろん人も生物多様性の一部であると同時に、生物多様性をうまく利用しながら、文明を築き暮らしを豊かにしてきました。

生物多様性の状況、危機

私たちの暮らしの中で、生物多様性の利用の仕方は、なにも食べ物だけに限ったことではありません。多様な生きものたちのくらしぶりや触れ合いの中から、芸術や文化が生まれてきました。心の豊かさ、精神的なやすらぎ、暮らしの潤いをもたらしてくれることも生物多様性です。生物多様性の劣化は、人々の生き方にも影響を与えることになりかねません。

生物多様性は、様々な生きもの暮らしやすさを目指すことによって、私たち人間の暮らしやすさも目指すものだととらえることが大切です。

現実的には、まず、生物多様性のおかれている現状を知り、課題や問題点を探り、最後は一人一人の問題として捉えなおしていくことが大切です。そのためには、身近な暮らしを見つめなおすことから始めてみましょう。